

ザ コカ・コーラ カンパニー アーカイブズについて

1939年に設立された欧米でも歴史のあるビジネス・アーカイブズのひとつ。米国ジョージア州・アトランタのザ コカ・コーラ カンパニー内のアーカイブ倉庫には、数万点の資料や物品、世界中から集められたコカ・コーラのボトルや看板、プロモーショングッズなどが保存されている。

資料管理の専門家であるアーキビストの責任者をつとめているのが Ted Ryan 氏。Ted 氏によれば、このアーカイブズは、「コカ・コーラの物語を伝える "すごいモノ (製品・広告など)" を従業員や全世界のファンに届けている」とのこと。



エドワード・J. (テッド)・ライアン氏

ザ コカ・コーラ カンパニー・ヘリテージ コミュニケーションズ部ディレクター。

1997年6月より歴史を語る物品やデジタルアーティファクトのコレクションを管理してきた。コカ・コーラの直近50年のボトルや広告物など約25,000点を復元・デジタル化・カタログ化し、アメリカ議会図書館に寄付するプロジェクトの元マネージャー。

また、コカ・コーラの歴史資料を展示している The World of Coca-Cola の歴史物担当者であり、アンディ・ウォーホルの展示を含む「ポップカルチャー」ギャラリーの責任者。ラテンアメリカにおけるコカ・コーラ100周年の記念書籍を執筆し、現在もコカ・コーラ社のウェブマガジン型サイトのブログ「コカ・コーラジャーニー (Coca-Cola Journey)」で記事を執筆している。

また、日頃から公式フェイスブックとツイッターに投稿するなど、お客様と直接繋がる機会を作っている。

さらに広報担当として、Bloomberg tv、CNN、Food Network、Antiques Roadshow など、数々のメディアにも出演している。

エモリー大学歴史学科卒業。米国アーキビスト協会ビジネス・アーカイブ・セクション元会長。ザ コカ・コーラ カンパニーへの入社前はアトランタ・ヒストリー・センターで10年間、複数の大型プロジェクトに参加。ターナー・フィールドのアトランタ・プレーブス博物館やポビー・ジョーンズ・ゴルフ・コレクションの主事を務めた。同社在職中、米南部のマイナーリーグについてドキュメンタリー映画を製作し、副プロデューサーとしてエミー賞を授賞している。





かざらない唇ほど美しい。資生堂[京紅]



いしい みつのり
石井 光学 氏

株式会社資生堂
企業文化部 企業資料館館長

1966年、大阪府出身。1990年関西大学社会学部。資生堂入社。3か所（広島、山梨、神奈川）での営業活動を経験後、2001年より広報部で社内報編集長とマスコミ対応、2012年より企業文化誌『花椿』編集長、2015年より資生堂企業資料館館長を務める。



1992年に資生堂創業120年記念事業の一環として設立された、資生堂の企業アーカイブズを担う資料館。静岡県掛川市に工場の広大な敷地に工場とは独立した館として建設され、1階・2階が展示室3・4階が収蔵庫となっている。

資生堂は、創業以来の企業活動を通して培ってきた知的・感性的資産を経営資源の1つとして捉え、これらを収集・整理・保存・活用するため、他社に先駆けて1990年に「企業文化部」を設立した。企業資料館は、企業文化部の下で、社内外の知的・感性的財産を収集、整理、保存し、研究や情報発信によって社内外へ還元する役割を担っている。

したがって、資生堂企業資料館では、このような役割の下に集積された商品パッケージやポスター・CMなどの宣伝制作物が、常設展示や年に数回行う企画展示を通じて公開されている。

常設展示では、1872年の創業から現在に至るまでの資生堂の歴史が紹介されるとともに、商品パッケージやポスターの変遷を辿ることができる。

資生堂企業資料館の特徴は、①一元的に資料を収集管理する体制が整っていること、②アーカイブズ管理に専任で従事する人材が存在することである。充実したアーカイブズとそれを支える人材という「車の両輪」が機能している事例は、全国でも数少ない。

経営資源としての活用だけでなく、社内外の関係者や研究者による調査・研究活動も盛んで、『研究紀要おいでるみんな』（1996年創刊）を2012年まで毎年発行し、研究成果の発信に努めてきた。また、地元掛川市の観光資源として広く認知され、今日に至っている。



「資生堂企業資料館」訪問
アーカイブズ・システムとそれを支える人材が機能している好事例